軟包装印刷のデジタル化を推進していくことで合意。

さらに両社は今回の協業体制による実際の生産運用を通して、「小ロット～中ロットに向けたソリューション」にとどまらず、「軟包装市場DX化に貢献する最適な生産フローの構築」を目指す。（関連記事3面）

新市場開拓へ

なキャットタワーなど

PANDECEN OW 20 露して大きい。9月から ンディン Makua ケ」でプ も開始し、 万円に対し 約で4倍以 めている。 ットタワ 印などを貼 多く、工具 立てで時間 も難しかった。そこで、紙製ハニカム構造パネルを使った新製品の開発に着手。モニターとして猫カフェなどに設置してもらい、その意見を反映させて形状の修正を重ね、約2年かけて完成させた。

ステップと穴、ボックスなどを組み合わせた隠れ家のような形状で、設置サイズは60㌢四方ながら、十分な高さ（195㌢）を確保している。段ボールパクルに回せる。

組み立て方法は、パーツの溝同士を差し込むだけで、糊もテープも工具も要らない。設計などを担当した営業部の伊藤真一氏は「コンパクトなサイズに抑えつつ、15分程度で簡単に組み立てられるのぎを製造し、商社を通じてペットショップなどの専門店に販売している。こうした販路に加え、新製品はペット用品を扱うネット通販業者にも積極的にアピールしていく。

ほかにも、既存製品の段ボール座布団に折

話題

EPSで図画工作の出前授業

リサイクル特性など知る機会に

トーホー工業

トーホー工業（大阪市中央区、☎0120・707・226）は、富山市立堀川小学校で9月26日、発泡スチロール（＝EPS）を用いた造形遊びの出前授業を行った。〝あえて〟不要になったEPSを図画工作の教材として活用するなどし、EPSの省資源性や特性について子どもたちに知ってもらうねらいもある。

思い思いにEPSで工作

同社は、堀川小学校第3学年3クラスを対象とする「SDGsでクミクミックス」と題した図画工作科の授業に、工場で不要になったEPS板を提供した。同校は、SDGs教育に注力しており、「EPSの循環型社会への取組み」について子どもたちに教えてほしいと同社に要請があったという。

今回、金沢営業所の道宗所長が「発泡スチロールの1日先生」として登壇。最初に図画工作の材料としては触れる機会の少ないEPSをもっと身近に感じてもらおうと、地元で開催されている「となみチューリップフェア」でプランターとして使用されている事例を紹介し、驚かせた。

続いて「発泡スチロールは空気のプラスチック」といわれる理由について、発泡スチロールの粒子を蒸気によって膨らませる実験を行うと、クラス中から大歓声があがり、その軽さや省プラ性に感心したようすだった。また、同社のクッション性の高い「EPSタマゴケース」による実験やリサイクル事例の紹介で子どもたちはEPSへの理解を深めた。

図画工作としては発想力を広げるための造形遊びの授業で、EPS板を自由に切り貼り。使い終わったEPSの端材も無駄にすることなく、全員で袋に回収し同社工場で減容リサイクルを行った。

このようにEPSがリサイクル特性に優れ、また体積のほとんどが空気でできていることを実感が伴うように伝えたことが次世代への啓もうになっていくことと期待されている。

ロングライフ紙パックの日を制定

日本テトラパック

利点を届け食品ロスの少ない生活

日本テトラパック（東京都港区）は、8（パッ）と9（ク）の語呂合わせから、8月9日を「ロングライフ紙パックの日」に制定した。

ロングライフ紙パックは、特殊構造の紙素材を使用し、アセプティック技術（無菌充填技術）を用いて無菌環境下で

同社が2022年に行った調査では、環境に対する関心が数年で高まったかを聞いた結果、約7割の女性が「関心が高まった」「やや関心が高まった」と回答しており、環境への関心が高まっている。同製品は常温で長期保存

包装）トレーシーラー

に置き換える包装方法です。